

演歌で心を伝えたい



演歌歌手を目指し、10年を超える内弟子生活が続ける小倉憲一さん。「売れる売れないに関係なく、日本人の心、人間の喜怒哀楽を表現できる歌い手になりたい」

松山出身 小倉さん 船村徹氏に師事

あの楽曲、あの歌唱を目指し、10年を超える歌力(うたぢから)法、だからこそ伝わる下積み生活が続ける若者がいる。松山市出る小倉憲一(30)。愛媛大を中退し、歌謡界の大御所の作曲家船村徹(77)に弟子入り。寝食を共にし、厳しい指導を受けながら、内な

(敬称略)

がある。「演歌」—Jポップや洋楽にばかりスポットライトが当たりがちな音楽界で、真に日本人の心に響く歌を届けたいと演歌歌手を目指し、10年を超える歌力(うたぢから)法、だからこそ伝わる下積み生活が続ける若者がいる。松山市出る小倉憲一(30)。愛媛大を中退し、歌謡界の大御所の作曲家船村徹(77)に弟子入り。寝食を共にし、厳しい指導を受けながら、内な

弟子の大門弾(29) 田市出身の3人が暮らす。小倉が仕事のスケジュール管理、大門が炊事洗濯と、船村の身の回りすべてを2人だけでこなす。

首都圏を台風が直撃した2009年10月の午後、船村が突然小倉に話し掛ける。「ちょっと電話して、あした電車大丈夫か調べてくれ」「さっき電話しま

した。今のところ予定通りだそうです。船村の考え事や思い、体調を察し、どんな問い掛けにも万全の「回答」を準備しておく。怠れば激しい叱責(しっせき)が飛ぶことも。「先生の信用が得られたと思つまで、3年ぐらいかかりました。心の奥、つまり先まで見られてますから恐ろしいですよ」

(5面に続く)